

持続的・効果的な認証産地の構築に向けて



J A アグリあなん J G A P グループ
団体事務局責任者 湯浅 嘉文

本日お話をさせていただくこと・・・

- 1. J A アグリあなん J G A P グループの概要とこれまでの経過**
- 2. 生産者が G A P に取り組みやすい体制の構築**
- 3. 今後の展望**

1. J Aアグリあなん J G A Pグループの概要とこれまでの経過①

概要

J Aアグリあなん J G A Pグループは、平成30年よりG A Pの取り組みを開始。取り組み品目は、本県の特産果樹であり、J Aアグリあなんの重点品目である「すだち」。

Pick up !

～なぜ、「すだち」で取り組むことになったのか～

- ① 当時、販売高3億円を突破！！
 - ② 若手生産者も増加傾向！！
- } 勢いのある部会



更に発展させるためには？

産地の信頼を高める手法や付加価値の増大に向けた取り組みが必要

そこで、**GAP**に取り組むことを決意

1. JAアグリあなん J G A Pグループの概要とこれまでの経過②

GAPに対する理解の醸成

GAPを進めるには、**生産者の理解**が**必要不可欠**。
GAPを調べて見ると、やることが多くて理解が得られるか心配に…



- ・必要な手間が増える
- ・コストがかかる
- ・帳票類の整備 etc.

- ① 生産者がGAPに取り組みやすい体制の構築（後述）
- ② 繰り返し丁寧な説明



多くの生産者から「産地を次代につなぐために必要な取り組みだ」との理解を得られる

Pick up !

令和元年度には、16農場とJAアグリあなんが県下初となる**JGAP団体認証**を取得！
その後、令和2年度に16農場、令和3年度に5農場、令和4年度には3農場を追加！
現在では、40農場が**GAP**を**実践**！！

2. 生産者がGAPに取り組みやすい体制の構築①

GAPを進めるにあたって

一番大切なことは、生産者に「**営農活動に集中してもらおうこと**」

一方的に進めてしまうと

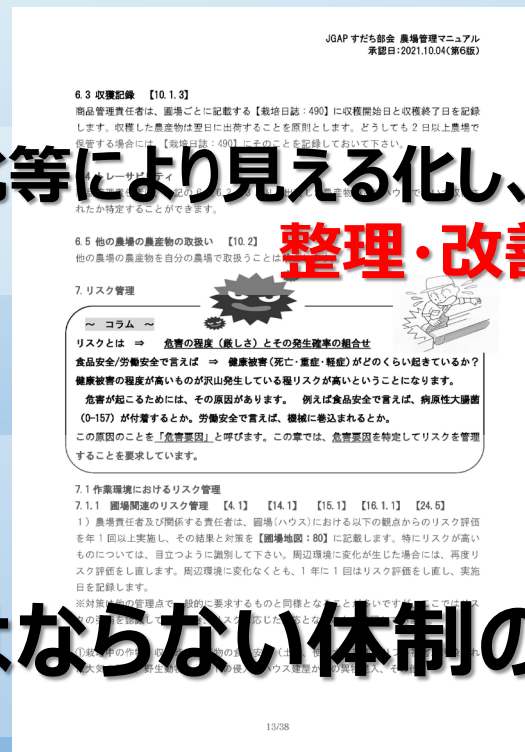
GAPに対する意欲や生産性の低下を招く可能性大

私が思うGAP

日々の営農活動で「**当たり前のこと**」をマニュアル化等により見える化し、**整理・改善を続けていくこと**

Pick up !

継続的な取り組みとするためには、**「GAPをやらされている」にはならない体制の構築が急務**



2. 生産者がGAPに取り組みやすい体制の構築②

体制の構築に向けて ~その①~

生産者と団体事務局の役割を明確化

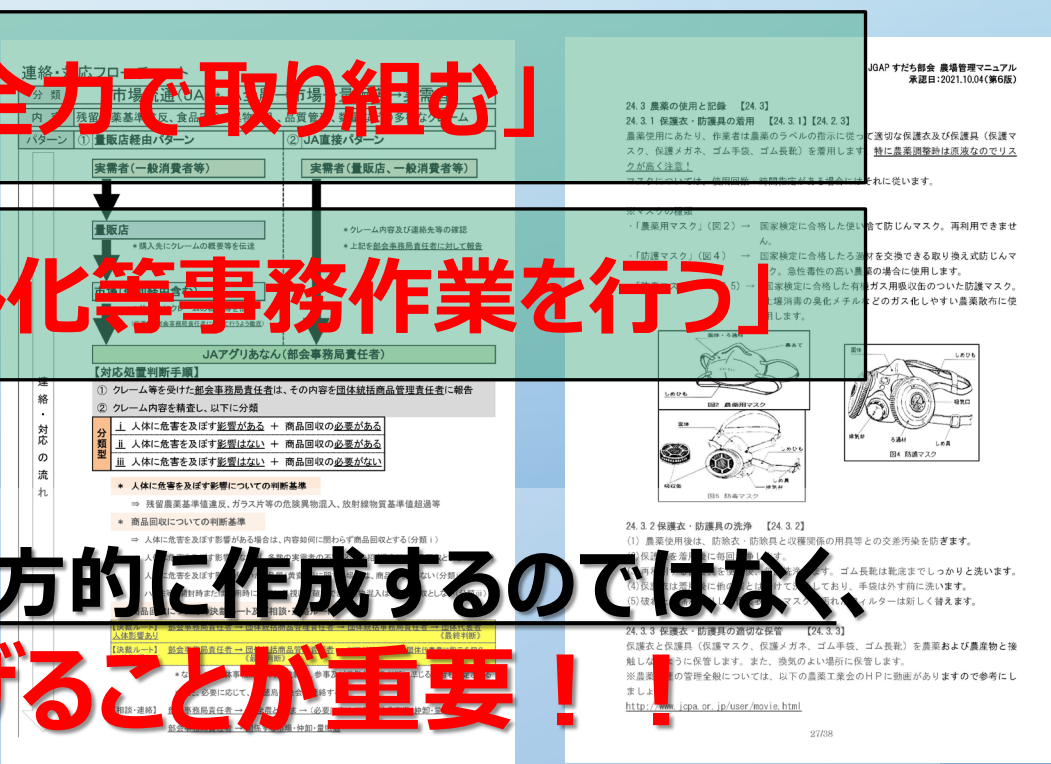
GAPの実践

生産者は、「**営農活動に全力で取り組む**」

団体事務局は、「**マニュアル化等事務作業を行う**」

Point !

マニュアルや帳票類の作成は、事務局が一方的に作成するのではなく、
生産者と一緒になって作り上げることが**重要!**



2. 生産者がGAPに取り組みやすい体制の構築③

体制の構築に向けて ～その②～

徳島県、都道府県中央会、全農を巻き込む

GAPの課題

巡回にかかる人員の確保

丁寧な指導を行うために必須

認証取得・維持にかかるコスト

無理なく取り組むために必須

Pick up !

関係団体を巻き込む前に、まずは団体事務局の体制を強化

⇒ 営農担当や販売担当、購買担当、総務担当などJA全体で支援できる体制を構築（総勢10名）

加えて、関係団体には、農場巡回や団体事務局の内部監査、帳票類の整理等を依頼

⇒ 依頼事項（徳島県：農場巡回/全農：農場巡回/中央会：農場巡回、内部監査、帳票類の整理）

2. 生産者がGAPに取り組みやすい体制の構築④

GAPの課題

巡回にかかる人員の確保

丁寧な指導を行うために必須

認証取得・維持にかかるコスト

無理なく取り組むために必須

Pick up !

国や県による補助事業とJAグループ徳島の独自支援の併用により**イニシャル・ランニングコストを最小限に!**

⇒ 例) 令和元年度事業 (総事業費 34,669千円のうち国補 780千円、独自支援 2,383千円)

自己負担額 306千円に抑えることが可能に!

加えて、JAアグリあなんJGAPグループにおいても、**GAP積立を開始**

無理せず維持できる仕組みづくりを自らも着手!

Point !

関係団体に頼れることはしっかりと**「頼る」**ことが重要!!

3. 今後の展望

認証取得後の取り組み

JAアグリあなんJGAPグループはこれまで、

- ① 認証を最大限利用した、**販路の開拓**
- ② 国際競技（東京大会）への**食材提供**
- ③ GAP認証食材を利用した「グランイト銀座」での**産地フェア**



などに取り組む

今後は...

認証の**維持・発展**はもちろんのこと、
GAPを活用した**更なる販路の拡大**に努めていく

JAが創る農 第23期 [GAP取得] 篇

新農試農者の 経営課題にもプラス

国際イベントで調達される食材を目指せ!

GAP認証の取得で県産食材の拡販へ、JAアグリあなん

おわりに

**JAアグリあなんJGAPグループは、
認証を取得して5年目となります。**

引き続き、関係機関のご支援をいただきながら、**生産者自らが自発的にGAPの良さを周りに伝えてまわるような意識づくりや環境整備**を行っていきたいと考えております。

ご静聴ありがとうございました。

